



千葉労働運動

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話(鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(222)7207番

93.10.12 No. 3872

— 小選挙区制粉碎 —

10.21統一行動へ

労働運動抹殺を狙う

小選挙区制粉碎!!

細川連立政権が発足して3カ月が経過した。マスコミは細川政権をもてはやし、支持率は戦後最高となっている。しかし、労働者の現実はどうなのか。良くなることなど全くなく首切り・労働強化・生活苦が重くのしかかっているのだ。

われわれは、細川—小沢政権が狙っていることをしっかりと見極め、細川—小沢が狙っている反動攻撃に対決していかななくてはならない。

政治改革の目的は

小選挙区制導入

!!

細川—小沢・新生党政権は、自らを「政治改革政権」として位置付け「小選挙区制」導入に全力を傾注している。この間、日刊等でも明らかにしたように、小選挙区制は、時の権力者が独裁政治を挙行するための選挙制度であり、野党勢力を政治の場から一掃することを目的としたものである。金丸

事件以降、次々と噴き出す大手ゼネコンと政治家の癒着・やみ献金

・政治腐敗問題を現行の中選挙区制に問題があるかのようにすりかえ、「小選挙区制導入」=「政治改革」としているのである。ましてや細川—小沢が導入を図っている政党政助法などは、税金で四一四億円を政党に配布するというものであり、われわれが支持もしていない政党にも強制的に献金させられるという言語道断なものである。

まさしく自民党にもできなかった反動政策を細川—小沢が積極的に行なおうとしているのだ。

狙いは労働運動を

はじめとする階級闘争の一掃!

争の一掃!

細川—小沢は「小選挙区制」導入で何を意図しているのか。

小沢は、その著書「日本改造計画」のなかで「日本の戦後政治は多数決原理を無視あるいは軽視してきた。それが無責任な政治を生んでいる」「過半数が賛成している案を、少数のダダツ子がいて、そ

の子をなだめるために、いいなりになつてすべてを変えてしまう。

これは満場一致どころか、「少数決」である。少数者の横暴のため、多数者の意思が通らなくなる。「と主張している。細川は、所信表明演説のなかで「小選挙区制」について「国民の政権選択の意思が明確な形で示される」として「明確な形で」「政治選択・党派選択が限定される」と言っているのである。

では「少数のダダツ子」というのは一体だれなのか。これは明らかに、これまで政府・自民党の反動政策に抗し、闘ってきた労働者人民のことである。戦後まがりなりにも労働者の要求を代弁してきた社会党を解体し、「多数者(支配者階級)の意思」を押しつけるために、「ダダツ子」の労働者の要求・闘いを抹殺すると言っているのである。「小選挙区制」によって小沢らが議會を牛耳り、労働者の闘いを抹殺し、憲法改悪やPKOの拡大、PKFへの参加をどしどし行なおうというのである。

まさに、労働者の闘い、階級闘争の解体を通して暗黒政治への道を開こうとするものに他ならない。

一〇・二一小選挙区制反対の声を
全国で!

昨年一〇月自衛隊の海外派兵強行以降、全ての政治勢力がふるいにかけてられている。情勢の激変の中で、既成勢力は生き残りをかけてあがいているのだ。自民党は分裂し、社会党は閣僚の椅子欲しさに連立政権に加わる中で自らの墓穴を自ら掘っているのだ。

細川連立政権とはなんなのか。労働者の要求を代弁し、労働者のための政治を行なってくれる政権ではけつしてない。それどころか自民党には出来なかつた反動政策を推し進め、労働者の闘いをはじめめとした階級闘争を解体し、憲法改悪—戦争政策へ引きずり込もうとしているのである。連合はそのお先棒を担ぎ、細川政権を全面支持しているのである。

われわれは、労働者の敵—細川政権打倒を掲げ、当面「小選挙区制」粉碎の闘いに全力で決起しなくてはならない。
一〇・二一国際反戦デーに小選挙区制粉碎を掲げ、全国で決起しよう!

10.21統一行動—

18時から
大本木・三河台
(幹) ちば16.44快